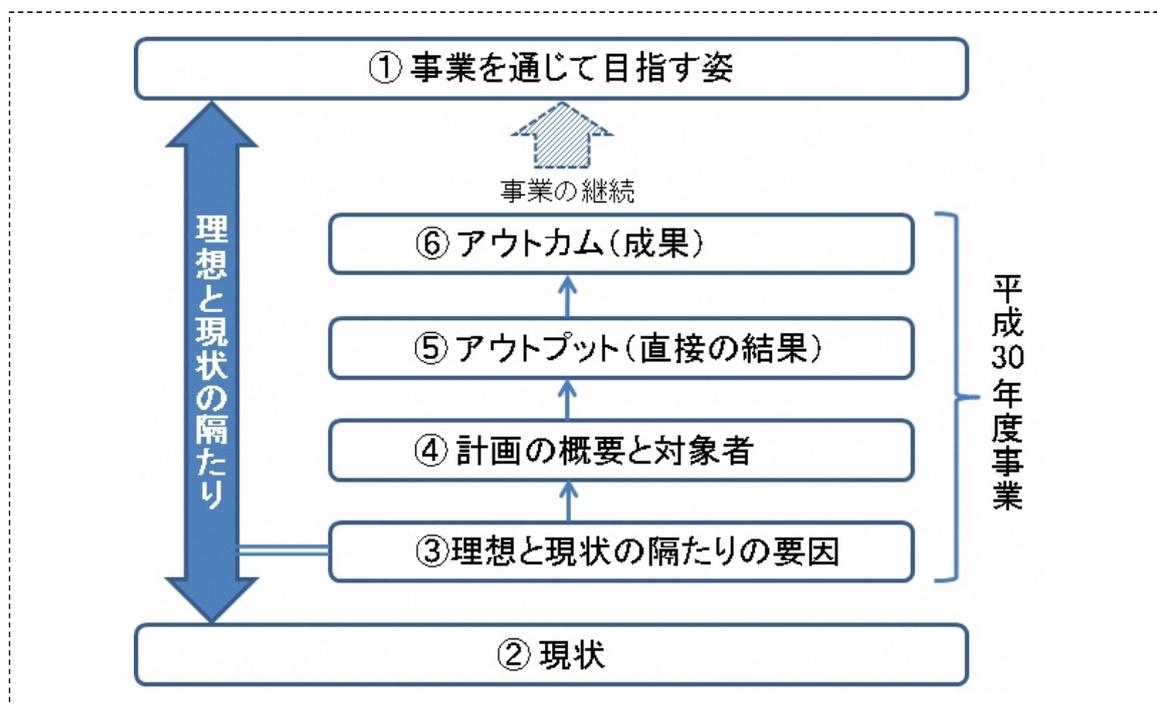


事業計画書

事業名	玉島陶・服部地区に住みたくなる定住・移住環境の整備、移住希望者と地区住民との交流促進。
団体名	玉島陶・服部地域まちづくり協議会

記入する項目の関係図

次の図は、この事業計画書の各項目の関係を示したものです。以下、この図を意識しながら、各項目に記入する内容を検討してください。



1 目指す姿

事業を通じて目指す姿や、事業を実施する目的はどのようなものですか。「地域や社会、人のどんな問題を解決し、どのような状態にしたいのか」を具体的に記入してください。

玉島陶・服部地域の魅力が再発見され、住民が地域に愛着、誇りを更に持てるようになり、豊かな心で活気あふれる地域にする。
 地域ぐるみで、移住希望者を積極的に受け入れる地域にする。
 元々住んでいる人と移住者が連携・協働できるコミュニティや地域活動を積極的に行い、人とのつながりを大切に考える地域にする。

2 現状

上記 1 の目指す姿と比べて、現在はどのような状況にありますか。

玉島陶・服部地域の「生活環境・自然環境」が「かけがえのないもの」と住民に認識されていない。

玉島陶・服部地域まちづくり協議会の会員数が若い人を含めて少ない。

移住者が気軽に相談できる窓口がない。地域の人と交流するサロンがない。

3 目指す姿と現状の隔たりの要因

上記 1 と 2 の隔たりを生み出している主な原因はどのようなものと考えますか。

- ・親の代から、玉島陶・服部地域に住んでいるので、この環境が当たり前と思っている。
- ・元々住んでいる人が移住希望者に対して、どのような方法で受け入れたらいいのか分からない。
- ・移住や交流を希望する人のニーズを十分に把握していない。

4 計画の概要と対象者（平成 30 年度）

上記 3 で挙げた要因を取り除くため、どのような人を対象に、どのような活動を実施しますか。150 字以内で簡潔にまとめてください（計画の詳細は下記 7 に記入してください）。

- ・29年度の事業で、移住希望者に対しての情報発信のパンフレット、ホームページ、ブログを制作。これらを積極的に利用して情報発信をする。
- ・田舎暮らしを希望している移住希望者に農業体験をしてもらい、その後の交流会でこの地区の魅力を発表し、参加者のライフスタイル合った地域なのか、また移住希望者がどんなライフスタイルを望んでいるのか、移住最適地になるには何が必要か等の、今後の活動に必要な情報を得る。
- ・玉島陶・服部地域まちづくり協議会の各部会の構成委員を増やし、将来的に出来る事業の可能性を拡げる。
- ・これからの地区の将来を考えると、玉島陶・服部地域まちづくり協議会の部会に、農業部会を設けなければならない。
- ・元々住んでいる人々を対象に移住促進の必要性、成功事例などを踏まえての研修会を開催。

アウトプット（直接の結果）とアウトカム（成果）について

アウトプットとは 事業の直接の結果であり、事業を通じて、どれだけの人に対し、どのようなサービスが提供されたかをいいます。

アウトカムとは 事業の成果であり、アウトプットが地域や社会、人にもたらす変化や効果をいいます。事業はこのアウトカムを生み出せるように計画します。

アウトプットとアウトカムの関係

事業を実施すると、まず、 というアウトプットが生じ、次にその成果として、 というアウトカムが生じる関係にあります。

事業実施 アウトプット アウトカム

5 アウトプット（直接の結果）

平成 30 年度の事業を通じて、どれだけの人に対し、どのようなサービスを提供しますか。

- ・農業体験をした後で、農業体験参加者と元々住んでいる人と玉島陶、服部地区で採れた農産物を食材にした料理を食べながらの交流会を開催する。交流会では、この地域の人々がどんな生活をしているのか、どんな魅力がある地域なのか発表し、参加者がそれぞれに思い描いているライフスタイルが実現できる可能性のある地域であることをアピールする。また参加者がどんなライフスタイルを望んでいるのか、移住する地域には何が必要か等、今後の活動に必要な情報を得る。
- ・玉島陶・服部地域まちづくり協議会に、新しく農業部会を設立し、将来の当地区の農業を考える。
- ・これからの当地区を考え、渉外部会（7名）おいでんせえ部会（8名）PR・広報部会（7名）に移住希望者と同年代の30代、40代の若い人を含めた新規の会員を募る。
- ・元々住んでいる人々を対象に移住促進の必要性、成功事例などを踏まえての研修会を開催することで、地域が持つ特性を「かけがえのないもの」として認識する大きなきっかけとする。
- ・岡山県を移住先と考えている人を対象とした大阪での移住相談会に参加し、PR活動を行い、交流人口を増やす。

アウトプットを測る指標と数値目標を記入してください。

指標	現状の数値	事業実施後の数値目標
新規部会	0 人	8 名
各部会の構成委員	3 部会 2 2 名	3 部会 2 8 名
農業体験参加者数	0 名	1 2 名 (6 名 × 2 回)
研修会	0 人	6 0 名 (3 0 名 × 2 回)
大阪での移住説明会	0 人	3 0 人

事業実施後の数値目標は、どのような方法で測りますか。

各取り組みを実施するごとに、参加人数を数える。

6 アウトカム（成果）

上記 5 のアウトプットが、平成 30 年度中に、地域や社会、人にもたらす変化や効果はどのようなものですか。

農業体験、交流会、研修会、都市圏での移住相談会に参加することで、元々住んでいる人々がふるさとへの思いを大切に、積極的に住み続けるための「愛着・誇り」を構築することができる。そして地域への「愛着・誇り」を共有することで、住民同士の人とのつながりを強化することができ、地域活性化につながる。

農業体験、交流会、研修会、大阪での移住説明会で、地域が持つ景観をはじめとする人を引きつける魅力が「かけがえのないもの」として認識される大きなきっかけとなる。移住者を受け入れるための組織が形成され、積極的に移住者を受け入れる機運が高まる。

7 計画の詳細

(1) 具体的な内容

内容,対象者,実施期間,実施場所,ねらいなど,できるだけ明確に記入してください。

農業体験

内 容: グリーンスムージーに適した青物野菜(小松菜、明日葉、ケール、ピーマン等)の栽培,摘み取りの体験

対 象 者: 移住希望者

期 間: 6月から11月の間2回開催

実施場所: 陶・服部地内

ね ら い: 経験のない草取り、水撒き等の農業作業を体験して、最後の作業は摘み取りをして頂きます。収穫の楽しさを味わって頂きます。

交流会

内 容: 自分たちで摘み取った野菜とグリーンスムージーに適した野菜を用意。

また、果物は桃、ぶどうのジュレを使用し、自分好みのスムージーを作ってもらいます。スムージーを飲みながらの交流会を開催。

対 象 者: 移住希望者

期 間: 6月から11月の間2回開催

実施場所: 穂井田憩いの家

ね ら い: 自分たちで摘み取った野菜と岡山産の桃、ぶどうを使用したスムージーを味わっていただくことで親近感が湧き、また来てみたい、移住したい気分になって頂く。また、移住者からみた陶・服部地区の印象が聞け、今後の移住促進活動に必要な情報を得る。

研修会

内 容: 移住定住を企画立案し、多くの成功事例を持っている人を講師として、開催をする。

対 象 者: 元々陶・服部地区に住んでいる人

期 間: 6月から10月の間2回開催

実施場所: 穂井田憩いの家

ね ら い: 元々陶・服部地区に住んでいる人が強い意志を持って積極的に住み続けるための「愛着・誇り」を醸成し、これからの陶・服部地区には移住者を受け入れることが必要であることを認識してもらおう。また、積極的にこの事業に参加する人材を発掘する場にする。

かわら版発行

内 容: B4サイズ両面に印刷。に当会の活動予定、結果報告をするため。

対 象 者: 陶・服部地区住民

期 間: 6月、10月、2月の3回発行

ね ら い: 当事業が地区住民に浸透して、理解して、積極的に参加してもらおうため。

(2) スケジュール (準備～実施～報告)

毎月	例会開催
4月	農業体験の畑確保
5月	農業体験の畑にタネを蒔き、苗を植える。
6月	第1回研修会開催
6月	かわら版発行
9月	第1回農業体験・交流会開催
10月	第2回研修会開催
10月	かわら版発行
11月	第2回農業体験・交流会開催
2月	かわら版発行

(3) 実施体制

上記(1)の計画を実施するにあたり、実際に取り組む団体会員を記入してください。また、人件費を支払う予定の団体会員には、人件費欄に「有」を記入してください。

氏名	事業に有効な資格や経験	人件費
中島 一郎	穂井田地区社会福祉協議会会長	有り
小野 健児	穂井田地区社会福祉協議会顧問・農業委員	有り
渡辺 常吉	穂井田地区社会福祉協議会理事・交対協会長・桃農家	有り
小坂 秀三	穂井田地区社会福祉協議会副会長・土木委員	有り
岡本 弘	穂井田地区社会福祉協議会理事・安全協会支部長	有り
藤井 巧	穂井田地区社会福祉協議会副会長	有り
太田 博朗	穂井田剣道少年団指導者	
豊田 園子	穂井田地区社会福祉協議会会計・主任児童委員	
村井 正和	穂井田地区社会福祉協議会書記・学童保育責任者	
井上 美津子	穂井田地区社会福祉協議会書記	
10名を超える場合は、外 名としてください		外 (1 2) 名

8 受益者負担 事業の財源確保のため、可能な限り参加費や受講料などを徴収してください。

(1) 徴収する(見込み: 1人300円)

(2) 徴収しない(理由: _____)

収支予算書

1 収入の部

科目	内訳	金額(円) ₂	積算根拠
受益者負担	講演参加費	18,000	300円×60人=18,000円
会費からの繰入		20,000	
その他		0	
市補助金		500,000	
収入合計		538,000	(支出合計と一致)

2 支出の部

科目	内訳	金額(円) ₂	積算根拠
人件費(会員) ₁		50,000円	800円×4時間×4日×4人=50,000
交通費(会員) ₁		0	
人件費(アルバイト等)		15,000円	農業体験 800円×3時間×2日×3人
謝金(講師等)	講師謝礼	60,000円	30,000円×2=60,000円
	農業体験指導	12,000円	6,000円×2=12,000円
旅費交通費(講師等)		0	
消耗品費	北°-代、ノト	11,000円	A4コピー: 3円×8枚×28×11回=
	農業体験関連	65,000円	7,392円
	マルチシート		A4コピー用紙代: 450円×6冊=
	肥料		2,700円
	苗・タネ		ノトA4×5冊=1,300円
			マルチシート(150cm×100m) 15,000円 防虫ネット(180cm×100m) 22,000円 苗ポット、苗用土、肥料 24,000円 明日葉、ケール、他タネ 4,000円
印刷製本費		0	
通信運搬費	資料郵送費	4,000円	
保険料		0	
使用料・賃借料	農地借地料維持 管理料	60,000円	10,000円×6ヶ月
外注費・委託費	ハ°ソフット印刷費	100,000円	2,000部

様式第3号

	H.P 管理	48,000 円	季節・イベント等でトップページデザイン・写真変更 年3回発行(6月、10月、2月)
	かわら版	75,000 円	
対象経費計		500,000	
食糧費		20,000	
人件費		0	
その他		18,000	
対象外経費計		38,000	
支出合計		538,000	(収入合計と一致)

1: 会員に支払う人件費と交通費の合算額は、対象経費計の1割を上限とする。

2: 金額欄は切り上げて千円単位で記入してください。